

<p>★学校教育目標 自ら考え学ぶ子(か:かながえる子) 健康でたくましい子(つ:つよい子) 思いやりのある子(や:やさしい子) めあてをもってやりぬく子(く:くじけない子)</p>		<p>★重点計画の概要</p>	
<p>★目指す学校像(ビジョン) 笑顔いっぱい、やさしいいっぱい だれもが活躍し、ともに伸びゆく 南平小学校</p> <p>【めざす児童・生徒像】 ○かながえる子「課題発見力」「対話力」「問題解決力」 ○つよい子「自己有用感」「心身ともに健康な体」「行動力」 ○やさしい子「共感力」「豊かな感性」「人間関係調整力」 ○くじけない子「自己調整力」「社会貢献力」「創造力」</p> <p>【めざす学校像】 ○児童にとって、楽しく生活できる学校 ○保護者にとって、子供を通わせたい学校 ○地域にとって、信頼できる学校 ○教職員にとって、働きがいのある学校</p> <p>【めざす教師像】○指導力の向上を目指し学び続ける教職員 ○自他のいのちを守り心身ともに健康な教職員 ○子供一人一人を大切に感性豊かな教職員 ○チームの意識をもち課題解決に努める教職員</p>		<p>●共感や思いやりの言動を称賛し価値付けることで、自他の生命を尊重し合う心を育む。 ●授業のUD化やICT機器の活用により、「協働的な学び」「個別最適な学び」を実現する。 ●言語力を高め、自他ともの良さを認め合う多様な関わりを通して、自己有用感を育む。 ●体育科の授業改善と体育的活動の工夫により、運動の日常化を実現し体力の向上を図る。 ●地域の教育資源を活かした体験活動を通して、地域の良さをを感じ貢献する意欲を高める。 ●チーム南平小として、個々の教職員の強みと組織力を発揮して課題解決に取り組む。</p>	

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準				学校評議員・学校運営協議会の意見	結果の分析と改善策
				評価点	取組指標	評価点	成果指標		
いのち	自他ともの命を大切にできる豊かな心の育成を図る。	●全教科等で自他ともの良さを認め合い、活かし合う活動場面を設定する。 ●いじめの未然防止、早期発見・早期解決に向けて、組織的・継続的に対応する。	●他者に共感する言動や思いやりのある行動を称賛し価値付けることで、互いを尊重し合う心を育てる。 ●道徳授業の「生命尊重」「親切・思いやり」等に重点をおき、「いのち」の大切さについて考えを深める授業を実践する。 ●いじめアンケートや観察等を通して、いじめの早期発見に努める。いじめの疑いがある場合は、組織的に早期対応を行う。	3.3	4 100%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。 3 90%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。 2 80%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。 1 具体的方策を意識して取り組んだ教員が、80%未満だった。	3.1	4 児童のアンケートで、90%以上の児童が肯定的な自己評価をした。 3 児童のアンケートで、80%以上の児童が肯定的な自己評価をした。 2 児童のアンケートで、70%以上の児童が肯定的な自己評価をした。 1 肯定的な自己評価をした児童が70%未満だった。	●学校行事や集会活動等では子供たちの主体性を発揮させ、思いやりの心を育てる指導をしています。 ●6年生が1年生に縄跳びが跳べるまで休憩時間だけでなく「ひのっち」を利用して教えていました。 ●けんかに発展したとき一人の子が紙と鉛筆をもって話し合いを始めました。それぞれの意見を出し合い、仲裁し、決着させていた姿が見られ、普段からの成果だと思いました。 ●校長先生の講話、更に先生方の指導と学校を挙げて、頑張られていることは喜ばしい限りです。	思いやりの姿の具体的な場面を取り上げて評価いただいたことをありがたく思っています。毎週月曜日のお話朝会でも「思いやり」をテーマとする校長講話を年間を通して実施してきました。保護者アンケート「友達と仲良くしている」では、肯定的評価が97%（昨年度より3%アップ）でした。また、道徳授業地区公開講座で「いのち」をテーマとする授業を全校級で公開し、保護者や地域とともに考える機会としました。次年度も「やさしい子」を重点において教育活動を継続します。
学び	確かな学力の育成を図る。	●基礎・基本の定着を図るとともに、ユニバーサルデザインの授業づくりを推進する。 ●児童の考えを大切にし、対話的に学び合う授業を展開する。 ●ICT機器を活用し、個に合った内容や方法で学習できるようにする。	●授業のUD化（視覚化、共有化、焦点化）を進め、学習内容の着実な定着を図る。支援が必要な児童にとっても、分かりやすい学びの場を提供する。 ●学習のねらいを明確にし、児童が十分に思考し対話する授業を展開する。また、学習の振り返りを行い、授業改善に活かす。 ●校内研究で学習用タブレット端末を使った効果的な実践事例を蓄積・共有し、児童が自分に合った課題解決に活用できるようにする。	3.3	4 100%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。 3 90%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。 2 80%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。 1 具体的方策を意識して取り組んだ教員が、80%未満だった。	3.4	4 児童のアンケートで、90%以上の児童が肯定的な自己評価をした。 3 児童のアンケートで、80%以上の児童が肯定的な自己評価をした。 2 児童のアンケートで、70%以上の児童が肯定的な自己評価をした。 1 肯定的な自己評価をした児童が70%未満だった。	●タブレット端末の導入から2年が経過し、子供たちのタイピングスキルには驚くばかりです。自分の考えを打ち込み、友達の考えと比較しながら自分の表現を見直し修正する授業を参観しました。教師中心の教え込みの授業から脱却するこれからの授業の在り方を感じました。 ●ICT機器を駆使して工夫しながら子供たちの興味がわく楽しい授業となるようにしている先生方の努力が感じられました。 ●子供たちにはICT機器の正しい使い方を教えてほしいです。インターネットに頼らず自ら学ぶ力も付けてほしいです。	日常的に学習者用端末を使うことで、児童の活用スキルが向上してきました。情報モラル教育も併せて活用能力を図っていくことが課題です。授業では友達と考えを交流する場面でも、全員が画面でお互いの意見を共有し考えを深めることができました。児童アンケート「授業が分かる」では、肯定的評価が90%でした。授業で「何ができるようになったか」を明確に評価し、授業改善を進めていく必要があります。今後「個別最適な学び」の実現に向けて、教師がファシリテーターの役割を果たせる力を高めていきます。
関わり	人とよりよく関わる力を育成する。	●言語活動を充実させ、対話を通して協働的に課題を解決する力をつける。 ●社会規範を身に付け、ルールやマナーを守って生活できるようにする。 ●多様な関わりの場を用意し、児童が有用感を味わえるようにする。	●学級やチーム、グループの中で自分の思いや考えを伝え合い、協働して取り組む活動等を位置付け、実践する。 ●日常生活（校外学習等も含む）で、お互いが気持ちよく過ごすためのルールやマナーについて考えさせ、実践できる指導を継続する。 ●たてわり活動や異学年と関わる活動を通して、分担の仕事や学年の役割を果たすことで自己有用感をもたせる。	3.2	4 100%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。 3 90%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。 2 80%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。 1 具体的方策を意識して取り組んだ教員が、80%未満だった。	3.4	4 児童のアンケートで、90%以上の児童が肯定的な自己評価をした。 3 児童のアンケートで、80%以上の児童が肯定的な自己評価をした。 2 児童のアンケートで、70%以上の児童が肯定的な自己評価をした。 1 肯定的な自己評価をした児童が70%未満だった。	●たてわりの異学年交流や全校遊び、子供祭りなど年間を通して計画的に実施しています。集団生活の維持のためにもルールを身に付けることは重要ですが、子供たちに気付かせ考えさせるようにしています。 ●ホームページを見て校外活動の様子を見てみると、社会との関わり等、よくできていると思います。 ●たてわり活動で他学年との関わりにより同じ南平小の一員として仲間意識が生まれると思いました。 ●異年齢で仲良く遊んだり世話をしたりする姿をよく見かけます。日々の活動の中で自然と行われている結果だと思っています。	1・2年生の学校探検、3・4年生のソーラン節、5・6年生の移動教室発表会等、異学年で関わる場面を意図的に設定し、上級学年に憧れの思いをもてるようにしました。学習発表会では、全学年の発表を会場もしくはオンラインで鑑賞し、南平小の一員としての喜びと自覚をもてるようにしました。また、「南平小の7つの約束」では、児童主体となるように児童の意見を取り入れてきました。たてわり遊びでは、高学年を中心に進めています。また、中学年の活躍の場を工夫する必要がありますと感じています。
体力・健康	心身ともに健やかな児童を育成する。	●運動の楽しさと体力の向上を意識した体育科の授業づくりと体育的活動を工夫する。 ●保健指導、食育指導の充実を図る。 ●教職員・児童がともに、コロナ禍でも対策を工夫することで可能となる活動を考え実現する。	●運動の楽しさを味わうために、運動量が確保された体育授業への改善を行う。 ●日常的に運動に親しめるように、体育朝会や持久走月間等の体育的活動を計画的に実施する。 ●保健指導や食育指導を通じて、健康な体作りの大切さに気付かせる。 ●感染防止対策を徹底するとともに、学校生活を充実させるためにできることを見出し、実践する。	3.7	4 100%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。 3 90%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。 2 80%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。 1 具体的方策を意識して取り組んだ教員が、80%未満だった。	3.4	4 児童のアンケートで、90%以上の児童が肯定的な自己評価をした。 3 児童のアンケートで、80%以上の児童が肯定的な自己評価をした。 2 児童のアンケートで、70%以上の児童が肯定的な自己評価をした。 1 肯定的な自己評価をした児童が70%未満だった。	●マラソンや縄跳びなど、目標をもって頑張っていました。 ●中休みに校庭で一生懸命縄跳びをしていました。友達にも教えている子もいて心身ともに成長していくと思いました。 ●すぐ疲れてもうだめという言葉を出してしまう子供が増えているように思っています。中央大学の学生に来てもらい、箱根駅伝の話などをしてもらって楽しくなるのではないかと思います。 ●季節や学校行事などとの関連や地産地消の観点から日々献立を工夫しホームページで情報発信しています。家庭はもちろん子供たちにも望ましい食生活の涵養に貢献していると思います。	持久走月間や短縄月間、長縄月間では、休み時間等に自主的に取り組む児童が増え、運動技能の向上とともに体力向上を図ることができました。一方で、運動量のある体育の授業を日々展開することが課題と考えています。外部の方を招聘したスポーツ教室などを行い、児童の運動への意欲を高める取組を推進していきたいと思っています。また、栄養士の食育授業により、給食の食材に対する興味関心の高まりや生産者への感謝の気持ちがもたためたので、今後も継続して取り組んでいきます。
地域	地域の自然や人材から体験的に学び、地域に貢献する意欲を育てる。	●地域の自然や文化に触れながら、体験的に学ぶ活動を指導計画に位置付ける。 ●地域の人材や関連施設等と連携し、多様な学びができるようにする。 ●地域の良さや課題に目を向け、地域環境を良くしようとする意欲をもたせる。	●生活科・総合的な学習の時間、理科・社会科等の年間指導計画に、地域の教材や人材を活用した授業を位置付け、実践する。 ●幼保小連携、小中連携、近隣の都立高校や大学等と交流する機会をもち、多様な関わりを通して地域の良さを実感できるようにする。 ●地域学習の成果を発信し、地域人材と豊かに関わるようにする。 ●積極的に地域行事に参加・協力し、地域との関係を深める。	3.1	4 100%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。 3 90%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。 2 80%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。 1 具体的方策を意識して取り組んだ教員が、80%未満だった。	3.4	4 児童のアンケートで、90%以上の児童が肯定的な自己評価をした。 3 児童のアンケートで、80%以上の児童が肯定的な自己評価をした。 2 児童のアンケートで、70%以上の児童が肯定的な自己評価をした。 1 肯定的な自己評価をした児童が70%未満だった。	●米作りは本校の伝統として開校以来定着しています。タイヤ等の遊具のペンキ塗り、花壇の整備等の環境作りに地域の方々への協力は大きな力になっています。 ●民生児童委員が学校を訪問し懇談したことも、関係機関と連携する上で大切になると思います。 ●お米作りやゲストティーチャーなど地域の人材を活かしていると思います。 ●スクールボランティアにお話を開催（年1・2回）したり地域人材による放課後補習教室をしたりしている学校もあります。	伝統となっている4年生の稲作りをはじめ、低学年の浅川のカサガサや3年生のつばめ観察など、地域の方の協力を得て実施することができました。また、5年生のお茶教室、4年生の琴指導等、ゲストティーチャーの指導を受けることで、伝統的文化への関心が高まりました。来年度は地域の人による放課後補習教室を実施する予定です。また、PTAと連携し年間スケジュールを組んで環境美化等の活動を進めていきます。
学校運営	教職員がチーム南平小として、組織的に課題解決に取り組む。	●報告・連絡・相談・確認を迅速かつ確実に行い、組織的な対応を行う。 ●全教職員で働き方改革を推進し、若手教員の人材育成に取り組む。 ●思いやりの精神をもち、相互に助け合う。 ●服務事故の未然防止への意識向上を図る。	●児童に関する問題や保護者からの要望、企画立案等について、学年主任や分掌の長、管理職への報告・連絡・相談を徹底し、迅速かつ組織的な対応を行う。 ●SSSの活用や校務改善等によって時間を生み出し、若手教員の育成を図る。 ●担当者を支える人的環境を整え、学校行事等は全員で役割を分担して取り組む。 ●随時、注意喚起を促すとともに、定期的に服務事故防止研修を実施する。	3.5	4 100%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。 3 90%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。 2 80%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。 1 具体的方策を意識して取り組んだ教員が、80%未満だった。	3.5	4 児童のアンケートで、90%以上の児童が肯定的な自己評価をした。 3 児童のアンケートで、80%以上の児童が肯定的な自己評価をした。 2 児童のアンケートで、70%以上の児童が肯定的な自己評価をした。 1 肯定的な自己評価をした児童が70%未満だった。	●日常の学校の様子等、ホームページにアップ、学級・学年・学校だよりとお忙しい中、頑張っています。さらに学年の先生方のまとまりを大切に励んでいただければと思います。 ●教職員の姿からチーム学校の具体的な場面を見ることは少ないように思いました。しかし、夏のラジオ体操に参加したり凍結防止の塩化カルウム撤きを行ったりと協力し合う姿がありました。 ●先生方がお互いに協力し合い補い合いながら助け合う雰囲気があるとと思います。	教員数が多い利点を活かし、行事後の会場の片付けや撤収作業などを効率よく進めることができました。凍結防止の塩化カルウムの散布では、全教職員で一斉に分担し、短時間で広範囲に撤き終えることができました。また、学年や分掌をはじめ小さなことでも報告・連絡・相談する意識が高まり、児童間のトラブルや保護者対応等、比較的早期に対応することができました。職務におけるチームワークをともに、さらに支え合う体制を構築し、心身ともに健康で働ける環境を整えていくことが課題と考えています。

※評価指標・評価基準は、2の段階を現状としています。